

**製品名: DAP-5 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab09785**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	90kDa

**抗原情報**

遺伝子名	EIF4G2
別名	EIF4G2; DAP5; OK/SW-cl.75; Eukaryotic translation initiation factor 4 gamma 2; eIF-4-gamma 2; eIF-4G 2; eIF4G 2; Death-associated protein 5; DAP-5; p97
遺伝子 ID	1982.0
SwissProt ID	P78344
免疫原	抗血清はヒト EIF4G2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 41-90

**背景**

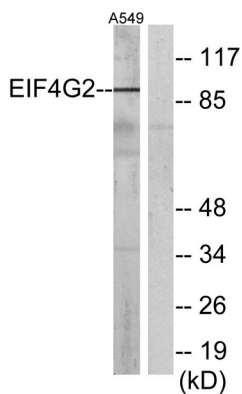
翻訳開始は、キャップ構造を特異的に認識する真核生物翻訳開始因子 4F (eIF4F) によって媒介されます。eIF4F

は、eIF4A、eIF4E、eIF4G の3つのサブユニットからなるキャップ結合タンパク質複合体です。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、eIF4A および eIF3 の結合部位を含む eIF4G の C 末端領域と相同性があります。また、eIF4G は N 末端に eIF4E の結合部位を含んでいます。キャップ依存性および非依存性の翻訳をサポートする eIF4G とは異なり、この遺伝子産物は、翻訳的に不活性な複合体を形成することで、翻訳の一般的なリプレッサーとして機能します。in vitro および in vivo 研究では、この mRNA の翻訳は非 AUG (GUG) コドンでのみ開始されることが示されています。この遺伝子の異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],機能: 有糸分裂、アポトーシス、およびウイルス感染におけるキャップ依存性翻訳から IRES 依存性翻訳への切り替えに関与すると考えられる。一部のカスパーゼおよびウイルスプロテアーゼによって切断される。、その他: この遺伝子は、APOBEC1 トランスジェニック動物モデルの肝臓において広範囲に編集されていることが示されている。この異常な編集は、APOBEC1 の過剰発現によって誘発される強力な癌形成に寄与する可能性がある。NAT1 と呼ばれる異常な編集配列は、基本的な翻訳抑制因子であると考えられる。、PTM: リン酸化;有糸分裂中に過剰リン酸化される。、類似性: eIF4G ファミリーに属する。、類似性: 1 つの MI ドメインを含む。、類似性: 1 つの MIF4G ドメインを含む。、類似性: 1 つの W2 ドメインを含む。、サブユニット: セリン / スレオニンプロテインキナーゼ MKNK1 および MKNK2 と相互作用する。EIF4A および EIF3 に結合し、MIF4GD と相互作用する。、組織特異性: 調査したすべての成体組織で普遍的に発現しており、骨格筋と心臓で高いレベルを示す。胎児の脳、肺、肝臓、腎臓でも発現する。、

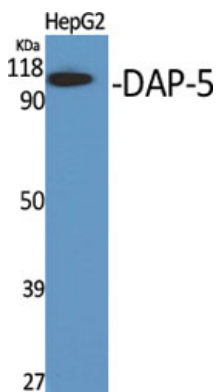
## 研究分野

ウイルス性心筋炎;

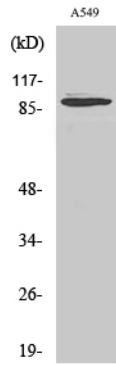
## 画像データ



EIF4G2 抗体を用いた A549 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



DAP-5 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



DAP-5 ポリクローナル抗体を用いた A549 細胞のウェスタンブロット解析